

9月21日 成田～バンクーバー

いよいよカナダに向けて出発の日です。

失語症になって23年目の息子と久しぶりの海外旅行でドキドキでしたが成田に着いて集合場所へ行くと、にこやかな笑顔の車椅子のご主人と一緒に奥様が声を掛けて下さってホッとして嬉しくなり不安が吹っ飛びました。

その後親しくさせて頂いた山形の櫻井さんご夫妻にも再会しました。

旅のお仲間は団長の山本弘子先生を始め16名の方で、そのうち車いすの方が3名、福井、山形、兵庫、埼玉、東京、北海道からはお医者様と ST さんも加わって下さいました。体調を崩された方が多く申し込みの人数より少なくなってしまったのが残念でした。

約9時間の飛行で多少の疲れはあったものの、バンクーバー空港では若い日本人の女性ガイドさんが笑顔で迎えて下さってリフト付きバスに乗り込みました。

このバスの皆さんと家族のような親戚のような和気藹々、笑顔いっぱいの1週間を過ごしました。バンクーバー空港ではカナダ在住で ST の娘との久しぶりの再会も出来た志村家でした。娘は車椅子を押すなどボランティアとしてもお手伝いさせて頂きました。

バスでホテルに向かう途中で人気観光地のグランドビルアイランドで昼食と早速お買い物。またインディアンのトーテムポールが有名なスタンレーパークや昔漁港の酒場として栄えたギヤスタウンを車窓から眺めました。街並には漢字名の和食店も多く見られました。

到着したホテルの窓から美しいフォルスクリークの入り江が一望出来、穏やかな波が打ち寄せて大小の船がたくさん浮かんでいました。日本より緯度が高いけど太平洋に面しているので雪は少ないそうです。

9月22日 郊外のキャンプ場で BBQ 交流会

カナダ失語症者の皆さんとバーベキューの交流会でした。カナダ勢は当事者さんと言語療法士、医療職などを目指すたくさんのボランティアさん約70名、私達旅行団もボランティアの通訳さんが加わって30名、総勢100名の大交流会になりました。

写真① 交流会会場の体育館で記念撮影



各テーブルには通訳さんが付いて下さったので会話は弾みました。私達の席の若い男性の当事者さんは胸に大きな「大日本帝国」の文字入りTシャツを着て得意げに広げて見せて下さってビックリしました。日本に7年滞在して音楽活動をされていたそうです。

各グループに分かれての二部では息子はカナダの皆さんと西城秀樹の「YMCA」を唄って踊って盛り上がっていました。

様々な事が原因で脳に障害を受け苦労したことや、治療やリハビリなど 共感できるお話も沢山聞けました。言葉は違うけど海の向こうにも頑張っている人達がたくさん居る事を今も感慨深く思いだします。

写真② 交流会会場は広大な森林のキャンプ場の一角でした



9月23日 フェリーでバンクーバー島に渡りビクトリアへ。アフタヌーンティーの見事な三段タワーとその甘さにビックリしました、食べきれなくてお持ち帰りした方も。

ブッチャードガーデンではその広さと丁寧に手入れされた素晴らしい庭園に 感動しました。各国の庭園があり日本庭園も鳥居などがある綺麗な庭園でした。

9月24日 バンクーバーのガイドさんともお別れして飛行機でバンフに着きました。

ここからは若い男性のガイドさんでした。ロッキー山脈が迫る風光明媚な小さな街でしたがギフトショップが並び散策と買い物を楽しみました。

大橋巨泉さんのOKショップもありました。

夕食は車椅子も入れる広い中華レストランでお料理も地ビールも美味しかった！

9月25日 いよいよ待ちに待ったコロンビア大氷原です。

お天気は晴れ渡って、途中立ち寄った ルイーズ湖の蒼く透明な景色は素晴らしかった。このルイーズ湖は娘の王女の名前で、背景にどっしり構えるビクトリア氷河が母の女王の名を冠しているのだとガイドさんの説明がありました。

大氷原を走る雪上車は幸運にも私達専用になり気分良く出発。目的地に着いて降りる際は息子の靴に滑り止めを付けて、私の肩につかまりながら氷原を歩かせました。他の皆さんも頑張っ歩いていらっやいました。

写真③ アサバスカ氷河にて大型雪上車をバックに



最高の天候に恵まれてそのスケールの大きさに息を呑み、息子は寒さも忘れて360度のパノラマを満喫していました。ガイドさんのお話では翌日は猛吹雪でバスは運休したそうです。私達はラッキーでした。超大型雪上車のタイヤは直径が130cmもありました。

写真④ 雄大なカナディアンロッキーと大氷河の撮影スポット



コロンビア大氷原の一部であるアサバスカ氷原は北半球最大規模の氷河で、長さは6km、巾1km、氷の厚さは250mだそうです。一方、氷河は年々融けて短くなっていっているという事でした。何年前まではあそこまで氷河があったんですと教えてもらい、雪上車から見る事が出来ました。

地球温暖化が進んでいるのですね。

カナディアンロッキーは、長さが4700km、巾150kmでアラスカからメキシコまであるのだそうです。バス移動の車窓からは雄大な山脈を延々と眺めることが出来て皆さん写真を撮りまくりでした。この雄大な山脈がすぐ近くに見えるのが不思議でした。

写真⑤ 雪上車の発着所にて興奮ぎみな私たち(笑)



9月27日 カルガリー空港から帰路

娘と別れてカルガリー空港から帰路につきました。そこでも最後まで買い物をしてドルを使い果たして日本へ。

今は何処の空港でも車椅子のサポートが手厚いですね。息子も広い空港では高速の電動車いすに乗せて頂きとても助かりました。

お世話になりました山本先生、本間先生ありがとうございました<(_*)> 楽しい思い出がたくさん出来ました(*^-^*)

遠藤先生のお言葉：旅は最高のリハビリ！！ を実感した旅でした。